

公益社団法人 私立大学情報教育協会  
平成25年度 第2回CCC芸術系グループ運営委員会 議事概要

- I. 日時 : 平成26年3月6日(木) 11:00~14:00  
II. 場所 : 公益社団法人 私立大学情報教育協会 事務局会議室  
III. 出席者: 有馬委員、井澤委員(記録担当)、久原委員、宮田委員、小川委員(遠隔)、  
(事務局) 井端事務局長、森下主幹

IV. 検討事項

- 資料① 平成25年度委員会の活動計画  
資料② 次回までの課題  
資料③ 教育改善モデルへのアンケート結果  
参考1 大学の卒業認定厳しく(新聞情報)  
参考2 高等学校教育と大学教育との接続・大学入学者選抜の在り方について(第四次提言)  
参考3 教授会の権限、4項目に(新聞情報)  
参考4 授業に「タブレット革命」(新聞情報)  
参考5 FSP実践講座の授業内容と運営の工夫(Future Skills Project研究会活動報告)  
参考6 私立大学等改革総合支援事業 配点区分表  
参考7 ムーク(MOOC)と反転授業がもたらす学びの変革~米国サンノゼ州立大学の挑戦~  
参考8 大学教育の分野別質保証のための教育課程編成上の参照基準家政学分野  
その他 平成25年度第1回被服学教育FD/ICT活用研究委員会議事概要

1. アンケートのご意見に対する返答について

概ね賛同の意見であり特に見直し修正はする部分はなかったが、以下の意見について返答を検討した。

① 「ICTと関係ない到達目標や到達度を提示して意見を聞くのはおかしい・・・」に対する返答。

事務局案をもとに検討。2段目「・・・対面授業の補完としてICTを活用した教育改善モデルの・・・」という表現は、対面授業の補完に限定される印象がある。一方、情報教育協会としての授業改善の目標は、対面授業からネット授業への変換を推進するものではない。との議論から、上記の部分を、「授業においてICTを利用した」との文面に変更。それ以外のところは、概ね、事務局案で了承。

② 「アートとデザインは別に論ずることに配慮すべき。」「デザインと美術・芸術を同じ分野として扱っていることに、大きな問題がある・・・」

これはもっともな問題であるが、私情協としての分野分類についての立場と事情、考え方などを説明して、理解を得るような方向で文面を作成することを事務局に一任。

2. 今後の委員会の進め方について

① 『授業におけるICT活用』アクティブラーニングについて、個々のケース(実例)を集める、モデルを提示することで理解を深める。

② 委員以外の先生方にも集まっていたき、対話しながら広く意見を求める。(集会)能動的学習のしくみを考える。Ex.)ICTを使ってサイバー空間で作品発表、評価等、プロジェクトを用意し、私情協がバックアップする。→すでに実行済みであっても、より大きなパッケージで行えば、教育における地域間格差を補える。

以上のような議論をふまえて、来年度末3月に東京にて集会を開催し多くの先生方に議論していただくこととした。

- ・ 集会のテーマ:美術・デザインの分野で地域、社会、他大学と連携した仕組みづくりなど
- ・ 集会の場所、日時、具体的な内容
- ・ 集会の準備のために6月頃に運営委員会を開き、詳細をつめる。